

透明なシートを通してみる景色は、まるで大きな水槽の中のような。光の屈折のせいか、向こう側がほんの少し歪んで見える。

四月に入ってから、コンビニやスーパー、郵便局と、次々にレジやカウンターが透明なシートで区切られ始めた。半年前には、誰もが想像すらつかなかったような光景が今では、日常になりつつある。

新型ウイルスは、半年もたたずに世界中に広がった。四月、我が国に緊急事態宣言が出され、テレビは日々増える陽性者数や、外国の悲惨な状況を映し出す。

朝、目が覚めた時に、夢でよかったと思い、すぐに夢じゃなかったと思い返すことが何度かあった。

今日は昨日の続きじゃなくて、明日は今日の続きじゃないのか。

桜は満開で、青い空に花びらが舞う光景は去年と何も変わっていないのに、空の下は大きく変わっていた。

娘がマスクを買う夢をみると言う。店でマスクを見つけて、一人一枚しか買えないので、何度か並びなおして三枚買ったのに、目が覚めたら一つもないと言う。

私が紙マスクを洗って使いまわしをしているのを見て、不安を感じたのかもしれない。

娘が安心できるように、色々な柄の布マスクをたくさん作った。

友人が絵を送ってくれた。疫病除けに効果があるという半人半魚の妖怪「アマビエ」が描かれていた。以来、インターネット上でも、長い髪で口のところがったアマビエの絵をよく目にするようになった。娘のマスクの一つに、その絵を油性のペンで書き写した。

「編集会議をどうしましょうか」

今号のせるの編集会議は、このような状況真ただ中の日取りであった。それぞれが作者に批評を郵送する案や、離れて座っていつも通りに会議をする案が出たが、ネットに詳しいT氏のご尽力で、初のオンライン編集会議が開催されることになった。

最初は少しあたふたしたが、その後は特にトラブルもなく、会議を終えることができた。

それ以降も、オンラインで複数の人と話す機会が度々あったが、大変便利であり、画面を通して話すことは新鮮であったりもした。

ただ、相手の顔を見ているつもりでも、画面上ではうつむいて映っていて、目を合わせて話すことが難しい。また、言葉と顔の映像以外は、ほぼ遮断されており、ふとした仕草や雰

困気は、画面に映らず伝わりにくい。そして、画面を通して見る向こう側は、やはりほんの少し歪んで見える気がするし、向こうからはこちらがそう見えているのだろう。

それはおそらく、コンピュータの性能の問題だけではない。

旅行の予定はすべてキャンセルになり、遠方の人に出会うことはなかなかできないけれど、日常生活の中で、ちょっととした楽しみはある。

自粛期間中、時々公園を散歩していた。春の風が、甘い花の香りを運んでくる。芝生の上で靴を脱ぐと、足の裏がさわさわとする。

友人から、ちょっとおもしろい話を聞くこともある。

レジ前に吊るされている透明なシートを、のれんのように片手でめくりあげて、話しかけようとする人。

視力検査のときに、飛沫が飛ぶのを防ぐため、声を出さずジェスチャーで答えてくれと言われているのに、輪っかの空いている方向を指さしながら「上！」と大きな声を出す人。慣れないことに四苦八苦してるんだなと、つい頬が緩んでしまう。

透明なシートの向こうで、みんな泣いたり笑ったりして、日常を過ごしている。まるで、色とりどりの魚が泳いでいて、ゆらゆらと海藻が揺れているように。

漂って泳いで、どこへ向かうのか、そして、どこにたどり着くのか。

パソコンの画面にそっと触れると、硬くて冷たいけれど、その中には無数の世界がある。それぞれに温度があって、匂いがある。そして、優しさがあって、祈りがある。

買い物に出かけた時に、少し歪んだ光景の中、ふと見覚えのある長い髪と横顔が見えた。光の屈折のせいかな、胸元がキラキラして、まるで鱗みたいだ。

急にこちらを振り向き、娘のマスクをじっと見て、とがった口元を少し緩めて去っていった。

私はしばらく、その場を動けなかった。

アマビエは、きっと皆の祈りを聞いてくれるに違いない。